



伝承小栗塚の碑



小栗墓塔(中央)



修復後  
閻魔堂にあった閻魔大王像



警女淵の碑

今日は浄瑠璃・説教節等で有名な、小栗判官と照手姫ゆかりの地と警女淵の碑を訪ねます。

なぜ西俣野地区に小栗判官伝説地があるのかは不明ですが、「六会地区の史跡」から引用すると、時は室町時代常陸の国、小栗城の主小栗満重は謀反を起こす、時の管領足利氏に攻められ敗走し、藤沢宿俣野の横山と言う豪族(夜盗)に身を寄せる、毒殺の計画を屋敷の遊女照手姫が小栗に告げるも、家臣10人と共に殺されて、上野原に捨てられる。三年後小栗は蘇り手足は糸のように細く、腹はただ鞠のようであったと言う。通りかかった遊行上人は哀れに思い、土車に乗せ、熊野本宮大社に送った。この部分が浄瑠璃では「黄泉路帰り」と云われ、それがこの俣野の小栗塚周辺だと伝えられている。

小栗があのかから「餓鬼」として復活したのは、臣下の忠節に感動した「閻魔大王」の取り計らいによると云われている。その閻魔大王が花応院に安置されている。さて、照手姫は小栗が殺害された後、屋敷から逃れ、美濃国青墓の宿場で遊女となっていた、元気になった小栗は横山を誅罰し、照手姫を招いた。(一部鎌倉大草紙から引用) いずれにせよこの物語は架空の出来事で、実話ではない。

### 今日のウオーキングコースを歩いてみよう。

小田急線の六会日大前駅が起点です。六会という名は明治11年の区町村制により、亀井野、石川、西俣野、円行、今田、下土棚の六ヶ村が一緒になって六会村が誕生したので名付けられた。スタートはいつもの駅前公園です。コースは線路沿いに「地神社」に向かいお参りします、国道467号を横切って「わいわい市」でトイレ休憩します。収穫期を迎えた畑の中を抜けると県道に出て下り坂に差しかかると左手擁壁に「伝承小栗塚」の碑がある、昔はこの辺りは小高い杜であったが、介護福祉施設の開設と共に土砂は削られ、碑は道路の擁壁に埋め込まれてしまった。尚、道路の反対側の畑の中に「すなふるい塚」(土震塚)がある、判官がここで蘇生したと伝えるが定かではない、老木の榊がその存在を示すのみだ。

コースは花応院を抜けて「閻魔堂跡」に向かう、閻魔堂は火災で既に無く、墓石類が数基昔を偲ばせてくれる、この墓石群の中に「小栗墓塔」がある。小栗判官と閻魔大王とは深い仲であるから墓塔が建ったのだろう。

閻魔堂から先は境川の河岸段丘となっているから、緩やかに坂を下ると畑に出て、「警女淵の碑」に出る。碑に手を合わせてから、境川沿いに北に向かい、境川遊水地公園でトイレ休憩とします。

日大の実験農場を通り抜け、雲昌寺にお参りしてから、朝スタートした駅前公園に戻ります。

「小栗墓塔」: 旧閻魔堂のあった場所にあり、天保(1830-44)の頃、火災にあつて堂は焼失したので閻魔大王像は花応院に運び込まれた、木造彩色の閻魔王像(像高104センチ)と云われる。

「警女淵の碑」: 横浜市と藤沢を流れる境川は暴れ川として有名である、特に俣野付近の川筋は蛇行が多く、氾濫を繰り返していた、この辺りには鎌倉街道も通っており、土手には「水難除け」の碑も建っていたと言う。(今でも土手番さまとしてある)当然江戸時代には境川の流域は閻魔堂の近くを流れていとた考えられるから至る所に淵を作った。

延宝年間(1673-81)一人の警女(盲目の旅芸人)が、誤って泥濘にはまり、溺死したと云う。この淵は街道に近いため度々誤って淵に落ちる人が多く、村人の手により淵を埋めたと言う。